14. 0955

鳥島東方海面戰鬪詳報

自昭和十九年七月三日
至昭和十九年七月四日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

0352

（目次）

一 計畫
二 経過
三 戰果及被害
四 我ガ兵力ノ現狀
五 功績
六 參考

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

自昭和十九年七月三日
至昭和十九年七月四日　鳥島東方海面戰鬪詳報（[redacted]）

第五輸送隊第二中隊（一小隊欠）

一　計畫

（一）任務企圖

（イ）昭和十九年六月三十日輸送任務ヲ帶ビ父島ニ待機中敵機動部ノ空襲逼迫濃厚ナリ急速出港ノ要アル旨指示ヲ受ケ同七月二日硫黄ニ向ヒ父島ヲ出動セリ

（ロ）敵潛水艦ノ行動活潑ニシテ小笠原列島線近海ニ潛在シアル情報指示ヲ受ケタリ

（ハ）敵潛ニ對スル疑航路ヲ計畫ス

（ニ）對空戰鬪ニ當リテハ死力ヲ盡シ全能攻撃ヲ決意ス

（ホ）對潛攻撃ニ於テハ全船突入爆雷攻撃銃撃ニ決ス

（ヘ）戰鬪後人命救助部署ヲ定ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(二) 戰鬪部隊

(イ) 指揮官中隊長 森 中尉　　二小隊長 小田兵曹長
　　三小隊長 得藤兵曹長

(ロ) 下士官兵 四十五名 海軍々屬 一一三名

(ハ) 機帆船十二隻 十三粍機銃各二 爆雷二乃至四個

第一郵船丸 第四辰鷹丸 第二辰鷹丸 第五郵船丸
第三東亜丸 第二十代川丸 第三廿丸 第一辰丸
第二辰丸 第3八重川丸 第5八重川丸 第6八重川丸

二 經過

(一) 自隊及友軍戰鬪經過

月日 時刻	自隊ノ戰鬪經過	友軍ノ戰鬪經過ノ概要
戰 八〇〇	針路北四度西ヘ北緯二八度五四分東經一四二度〇九分(推定)ノ地点ニ於テ左舷二六〇度方向ニ潜望鏡發見	附近友軍ナシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一八〇三	反轉突入ス
一八〇六	緊急右四五度ニ齊回頭爆雷攻撃ヲ
	ナス効果不明
一八四五	戰闘止メ元ノ隊形ニ復ス
七一四 晴 〇五五五	針路北ヘ北緯二九度五分東経一四二度一〇分 附近友軍ナシ
	(推定)ノ地点ニ於テ左一七〇度高角三度
	一〇〇〇〇米ニ敵機三機編隊ヲ發見ス
〇五五八	對空戰闘 打方始メ
〇六二〇	敵機反轉シツヽ銃撃爆撃ス
	第三東亜丸至近彈ヲ受ケ浸水甚大重
	傷下士官一名船員一名
〇六三〇	撃退セルモ敵機高角三〇度約一五〇〇〇米
	附近ニアリテ哨戒ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〇七二〇	敵機我ノ一八〇度方向ニ敗走ス 爾後
	警戒待機ス

(二) 作戰ニ影響セル事項

(イ) 底速カニシテ突入間ニアハザルハ遺憾ナリ

三、戰果及被害

(一) 戰果 (イ) 對潛戰威嚇追躡ヲ撃退

(ロ) 對空戰撃退

(二) 被害 (イ) 機帆船一隻ヲ失フ

(ロ) 重傷二名

四、我ガ兵力ノ現狀

機帆船群十一隻ノ戰闘力ヲ持續ス

五、功績

特ニ顯著ナル部下ノ功績ナシ

0958

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六、參考

(一)戰訓

(イ)低速力ノ機帆船群太洋航海中ニ於テ敵機ノ空襲ハ絶ヘス行動ス十三花機銃ノ猛攻撃ハ相當命中有効弾ヲ確認スルモ撃墜ニ至サルハ遺憾ニ堪ヘズ更ニ各船ニ一砲塔増備ノ要アリ今回モ再度大編隊空襲ヲ予期シ全員最後ノ奮闘ヲ決意セリ

(ロ)對潜攻撃ニ當リ如何ニ攻撃精神旺盛ナリト雖モ五節乃至七節ノ速力ニテハ突入及ハズ敵ノ標的タル感アリテ切歯扼腕ス

(ハ)對潜對空兩交戦共ニ攻撃兵器微弱ナル機帆船群ニ対潜水艦ノ砲撃ヲ予期セバ之ニ對抗スル兵器ナシ之ガ對策上氣昂揚上指揮船ノミニテモ五糎乃至八糎砲(野砲ニテモ可)裝備ノ緊要切ナリ

於テハ敵ノ所有スル攻撃兵器ヲ無効消耗ニ失セシメ我ガ被害極限ノ目的ヲ以テ分散攻撃ヲ有効ト認メタリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

1960

海軍功績調査部長殿
昭和十九年六月二十二日

軍機

七月三十一日 経由

あづさ丸戦闘詳報

昭和十九年六月二十日対空戦闘

特設運送船あづさ丸
船長 濱谷義

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一、形勢

敵ハ三月下旬「パラオ」空襲以来反攻ノ氣勢漸次高マリ五月下旬ニハ「ヨアーギニヤ」北西「ビアク」島ニ上陸ヲ開始シ此ノ方面ニ敵ノ機動部隊頻繁ニ出現セリ」

又「ジャワ」ニ在泊中ナリシ敵ノ有力ナル機動部隊ハ六月九日頃出港ソノ後所在不明ナリシ所六月十一日「サイパン」「テニヤン」「ロタ」「大宮島」等廣範圍ニ亘リ同時ニ空襲アリ、十四日ニハ敵ハ「サイパン」ニ上陸ヲ開始シ且ツ多數艦船ヲ以テ艦砲射撃ヲ加ヘ此ノ方面ニ敵ノ有力ナル機動部隊四乃至五群ガ行動シツツアルコト明トナレリ、味方ハ五月二十日「第一」作戦部隊ヲ編成セラレ其ノ基幹タルベキ第一機

動艦隊ハ「タウイタウイ」島泊地ニ待機シアリタルモ戰機熟スルニ及ビ六月十三日「タウイタウイ」島ヨリ「ギマラス」島ニ前進六月十五日「ギマラス」島ヲ出撃西太平洋ニ進出セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、計画
機密機動艦隊命令作第六十二號及第六十八號所定

三、經過
(1) あづさ丸八艦隊ニ附屬シ玄洋丸、雪風、浦風ト共ニ「ア」號作戰部隊第二補給部隊ヲシテ命ニ依リ六月十五日〇八〇〇ギマラス島泊地出撃ス。十七日一八四〇頃「E」点(北緯十二度〇分、東經一三一度〇分)ニ於テ第一補給部隊ニ合同更ニ翌十八日〇七三〇頃速吸ニ合同「F」点(北緯一四度四十分東經一三四度二〇分)ニ於テ待機セリ。
同日一五、十五頃更ニ右取ト合同シタルモ同艦ハ翌十

九日〇五一五頃分離「アミ」ニ向ヘリ、十九日二二〇頃
ニ至リ補給部隊ハ北緯一五度二〇分東經一三
四度四〇分ニ進出ス必ズキ命ニ接シ翌二十日〇六〇〇
同地点着燃料補給ノ準備完成待機シアリ
タル所一〇〇〇頃ニ至リ味方本隊ニ合同西戦隊
(愛宕摩耶高雄鳥海)ニ對シ兵航給油ヲ行
フベキ旨ノ命令アリタルヲ以テ同隊ニ近接ヲ試
ミタルモ本隊ハ高速力ニテ西航ヲ続ケツツアルヲ以
テ概ネ艦隊進行方向ニ続航セリ。
一五四五ニ至リ急速西方ニ避退セヨト命ニ接シ
概ネ補給部隊ハ合同ノ儘全速力(約十五浬)
ヲ以テ西方ニ避退セルモ一六〇〇頃遂ニ二七〇度方
向ニ本隊ヲ見失ヘリ、一七二五頃ニ七〇度遠距離

二敵機十六機北上スルヲ認メタルヲ以テ直ニ總員配置ニ就キ對空戰闘用意ヲナス。

間モナク更ニ二四〇度方向ニ十九機西方ニ飛行シツヽアルヲ認メ各艦概ネ三〇〇〇米ニ散開待機セリ

當時ノ陣形左ノ如シ

〔註〕第一補給部隊

(一)

速吸、日栄丸、国洋丸、請洋丸

響、初霜、夕凪、梅

第二補給部隊

(二)

玄洋丸、あづさ丸、雪風、卯月

敵機来襲ノ際ハ各艦概ネ針路三〇〇度全速運転ナリ

一七、四五ニ至リ〇度方向及三〇〇度方向上空ニ味方

HIBIKI 響	HAYASUI 速吸
GENYO M. 玄洋丸	YUKIKAZE 雪風
NICHIEI M. 日栄丸	AZUSA M. あづさ丸
UZUKI 卯月	YUNAGI 夕凪
KOKUYO M. 国洋丸	SEIYO M. 請洋丸
TSUGA 梅	HATSUSHIMO 初霜

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

部隊ノ射撃セル炸裂弾ノ砲煙ヲ認ム。
一七五〇頃ニ三〇〇度方向ヨリ補給部隊ニ近接シツヽアル敵機十六機ヲ認メタルヲ以テ針路三〇〇度トナシ待機シ居タル所敵機ハ後方ニ廻リ近接シ来タルヲ以テ之ニ対シ射撃ヲ開始セリ。
敵ハ三機編隊トナリ高度四〇〇〇米附近ヨリ降下角度約六十度ニテ急降下ヲ試ミテ給油船ニ対シ機銃掃射ヲ行ヒツヽ爆弾投下シ北方ニ飛ト退セリ。
本空襲ニ於ケルあづさ丸戦闘状況左ノ如シ
一八〇六頃本船左正横三〇〇〇米ニ在リシ云詳丸ニ対シ急降下中ノ三機編隊ノ敵機ヲ認ノ射撃開始之ヲ攻撃中一八〇七頃本船右百三十度高度三〇〇〇米附近ヨリ急降下若シクハ垂直爆撃ノ隊勢

二テ本船ニ接近シツツアル三機編隊ノ敵機ヲ發見
直チニ全速遁退行動ニテ二十五糎二聯裝機銃二
基並ニ短二十糎砲一門ヲ以テ邀撃之ニ集中
射撃ヲ浴セタルモ約五百米迄降下シ来リ約六
十キロ爆弾二個ヲ投下本船左九十五度船橋横舷
側ヨリ約四十米ニ落下水煙船橋ヲ越ヘ續イテ左
百五十度方向ヨリニ機急降下シ来リ約百キロ爆
弾二個ヲ本船後部両舷六十米乃至八十米ニ投
下更ニ執拗ニモ左舷後方ヨリ連続三回ニ機ノ編隊
ヲ以テ機銃ノ掃射ヲ浴セ来ルモ其ノ都度本船機
銃ノ猛射ニ依リ近接ヲ阻ミ之ヲ撃退セリ遇々
第三回目襲撃ニ来レル敵機ハ本船機銃ノ正確
ナル射弾ヲ受ケ下ラ乱射盲射ニテ無謀ニモ突進

シ来リシガ間モナク発火見事本船後方約六百米
ニ墜落他ノ一機ハ約四五千米飛行後黒煙ヲ残
シテ海中ニ没セルヲ認メタリ尚其ノ他ノ敷機ニ
対シ手敷命中弾ヲ得タルヲ確認シタリ。
サシモノ敵機ハ遂ニ我ガ鉄壁ノ防禦陣ヲ粉砕
スル能ハズ手大ノ損傷ヲ受ケテ北方指シテ飛ビ
去レリ時ニ一八二五ニシテ初弾発砲後十九分ニテ
開戦尚其ノ後西方水平線ノ彼方ニ味方艦隊ト
敵艦隊ト行機ト熾烈ナル交戦状態続キ居タルモ
一九〇〇頃休戦状態トナレリ此ノ時南冬平洋上極
メテ波静カニシテ何時シカ宵闇迫リ居リタリ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

A3

あづさ丸行動作業経過概要

天候	月日	時刻	行動作業概要
半晴	六ー一五	〇八三〇	第三補給部隊(補給隊玄洋丸あづさ丸護衛隊雪月浦月)
〃	〃	〃	ギマラス島出港第一警戒航行隊形
〃	〃	二〇〇〇	サンベルナージノ水道通過第五警戒航行隊形
〃	六ー一七	一三〇〇	E点着附近機宜航行
〃	〃	一四四〇	卯月ト會合ス
〃	〃	一五五〇	秋月ト會合ス(機動部隊ヨリ信号傳達ノ為)
〃	〃	一八三〇	第一補給部隊(日栄丸国洋丸清洋丸響)ト合同
〃	〃	〃	F点ニ向フ
〃	〃	一八四五	秋月・浦風本隊復帰ノ為分離
〃	六ー一八	〇七三〇	速水船團(速吸・初霜・夕風・梅ト合同ス)
〃	〃	一五〇〇	名取ト合同ス F点着

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

半晴	六一一九	〇五一五	名取解列マニラニ回航ス
〃	〃	一七三〇	總貨集合命令言葉傳達決戰開始當訓示
〃	〃	二四〇〇	北緯十五度三分東經一三四度四〇分ニ向フ
半晴	六一二〇	〇五二〇	洋上補給準備ヲナス
〃	〃	〇六二〇	艦隊ト合同反轉隨伴ス
〃	〃	一二〇〇	補給ヲ爲メ艦隊後尾ニ續航
〃	〃	一四一五	艦隊高速ニテ西方ニ遊退ス艦内第一配備
〃	〃	一五三五	艦内第二配備
〃	〃	一七二五	二〇度方向ニ敵機十六機及四〇度方向ニ敵機十九機味方主力ニ向フヲ認ム
〃	〃	一七二六	戰鬪用意
〃	〃	一七四六	對空戰鬪
〃	〃	一八〇六	初彈發砲續イテ射擊開始

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

半晴	六一二九	〇五〇五	敵機三機急降下各機一彈宛投下
	〃	〃	三彈共左舷四五十米ニ落下炸裂
	〃	一八〇八	敵機二機急降下各機一彈宛投下
	〃	〃	一彈ハ右一彈ハ左後部六十米乃至
	〃	一八一〇	八十米ニ落下炸裂
	〃	一八二〇	敵機二機ニ機銃掃射
	〃	一八四〇	〃
	〃	一八二〇	敵機二機撃墜
	〃	一八三〇	打方待テ
	〃	一八五〇	打方止メ
	〃	一八三〇	玄洋丸曳航準備
	〃	二〇三〇	曳航準備復旧

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

	四	令達報告等	サシ
	(イ)	電信	ナシ
	(ロ)	信号	左ノ如シ

艦船名	受信時刻	
速吸	〇五一五	〇六〇〇補給開始ノ機マデ予定
妙高	〇七二五	〇七〇〇方ニ〇七一〇六九間計一六K
〃	〇八一〇	加ヘ本輯針路二七〇度トセヨ
〃	〇八四五	速吸ヲ基準トシテ距離間隔五粁開ケ
〃		針路二七〇度微速
玄洋丸	〇九〇〇	本艦ノ二七〇度ニ占位セヨ
愛宕		〃 熊野 玄洋丸 清洋丸 速吸 あづさ丸
		秋月 黒潮 補給要領
		不供給艦ノ占位 令

愛宕	〇九一一		二區分大和、能代及驅逐艦三ハ玄洋丸
〃	〃		武藏及驅逐艦四ハ速吸及ハあつさ丸
〃	〃		及ハ清洋丸、驅逐艦一區分ハ第五司令官所定
〃	〃		三、要領、戰艦横從曳、遠洋艦兩舷横
能野	一三、一五		曳、能代以下ハ從曳、加補給艦ヨリ補給ス
速吸	一四、三五		四搭載量滿載
玄洋丸	一四、四五		あつさ丸ハ四戰隊ノ方ニ行ケ
速吸	一六、五〇		艦隊ハ予定ノ針路ヲ西北ニ取リ敵襲ノ虞ナシトセバ始
〃			書間ハ不規運動ヲ行ヒ隨伴セヨ
〃	一七、〇三		一七、一五ヨリ加記ニ依リ補給ヲ行フ雪風速吸ハ御警
	一七、三〇		初霜ハ玄洋丸ノ左右補給量滿載補給針路九〇度
			補給止メ、西方ニ避退ス。
			雪風敵飛行機ニ七〇度

86.

玄洋丸	一八、二五	曳航準備ヲナシヲケ
〃	一八、四五	此ノ前ノ要領ニ依リ曳航ヲナセ
日栄丸		其後ノ有無ヲ知ラセ西方ニ退避セヨ
玄洋丸	一九、二二	玄洋丸曳航ナセ敵機来ラバ直ニ引離ス
〃		準備ヲナシ置ケ
〃	一九、三〇	曳航準備近寄レ
〃	二〇、二五	曳航準備ヲ我ノ退船準備ヲ行フ
速吸	二一、一〇	後ニツケ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五、戰果及被害

(イ) 戰果

敵飛行機(艦爆)ニ機撃墜
同 数機撃破

(ロ) 被害

敵爆弾(約十三粍)十八発爆弾ノ破片多数飛来シ内航ニ多少ノ被害アリタルモ人員兵器機関ニ被害ナク戰闘航行ニ差ツカハナシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六　我ガ兵力ノ現状

七　功績

要ス

乗員一同極メテ沈着ニシテ平常ノ訓練ト何等異ナル事ナク勇猛果敢　敵機投下爆弾ノ破片ヲ潜リ機銃ノ盛射ヲ浴ビテモ之ヲ力戦奮闘シ克ク各自戦闘配置ヲ死守シ兵器、機関並操縦ノ全能ヲ発揮シ敵機ヲ撃墜シ心膽ヲ寒カラシメ以テ船ノ安全ヲ確保シ等五項(イ)ノ如キ輝ク戦果ヲ収メ得タリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

戰訓

補給部隊（徹庸油槽船）ハ艦隊作戰行動ニ不可缺ノ存在ナルハ言ヲ俟タズ 然ルニテ爾今艦隊ト共ニ同一戰斗ヲ交ヘザルベカラザル場合ヲ甚シトセズ 今次ノ戰斗ニ於テハ吾ガ機動艦隊ヲ敵ニ近接セル地点ニ占位シ各船極メテ少數ノ對空兵器ニテ有力ナ敵機ヲ邀撃シ兵裝ノ不足ヲ痛感シタリ

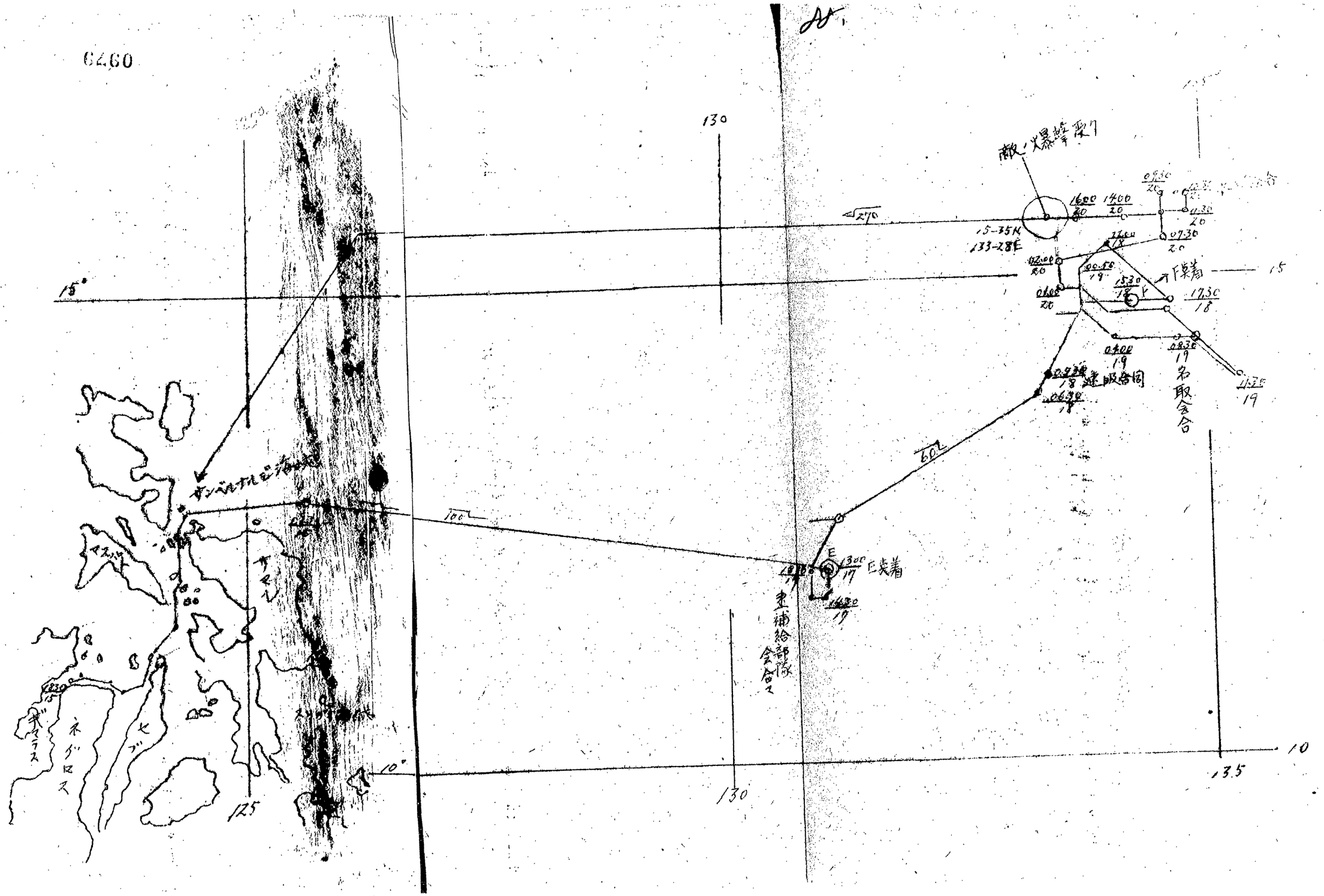
現在ノ兵裝左ノ如シ

徹庸船ニシテ最大ノ兵裝ヲ有スルモノ

二十五粍機銃二聯裝 二基

短二十糎砲 一門

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

あづさ丸乗組員名簿

准士官以上一名

職	氏名	記事
主務官	清水[illegible]	防時乗組 船員指揮官 兼砲長

高級船員（給五名）

職	氏名	乗船年月日
船長	濱谷義一	昭和一九・二・二五
一等航海士	奥川千松	一九・二・二五
二等航海士	今田弘	一九・四・二五
三等航海士	岩場脩三	一九・二・二五
機関長	篠田源次郎	一九・四・二五
一等機関士	青葉博	一九・三・二五
二等機関士	前田博	一九・三・二五
三等機関士	林武逝	一九・三・二五
三等機関士	幸島茂水	一九・三・二五
局長	御園潔	一九・三・二五

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

下士官、兵（五拾四名）

次席通信士	梶原年	一九	三	二五
次席通信士	島内助四郎	一九	三	二五
無線實習生徒	小林清	一九	三	二九
事務長	中村[illegible]年	一九	三	二五
事務員	西松[illegible]郎	一九	三	二五

配置	等級	氏名	入籍番号	記事
短艇兼砲台下士官	一等兵曹	花木弥太郎	吳山主水 一五五三八	
砲員	〃	竹島已之助	吳山主水 三三七六五	
〃	二等兵曹	掛江好男	吳山兼 二三四三二	
〃	一等水兵	花登敬一	吳浦水 一〇六〇六	
〃	〃	今北稔	吳浦水 一〇三九三	
〃	〃	早田勇雄	吳浦水 一四六三一	
〃	〃	結城信雄	吳水 一一七三〇	
〃	〃	南部[illegible]平	吳浦水 一四一四四	
〃	〃	下堤内辰八	吳浦水 一一七三六	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

90.

砲員	一等水兵	森山信吉	吳海水	一五七六〇
二五糧聯裝一番機銃員	〃	谷川俊雄	吳練水	一〇二三四
〃	〃	肥竹秋信	吳補水	一三九九八
〃	〃	金谷正秋	吳練水	一四〇九七
〃	〃	松尾翁男	吳練水	一四〇五五
二五粧聯裝二番機銃員	〃	伊藤教男	吳練水	一四〇一〇
〃	〃	服部克己	吳補水	一四〇一二
〃	〃	上念善城	吳練水	一〇〇〇四
〃	〃	鷲見德三郎	吳補水	一四八〇〇
第一班應急負	上等兵曹	山本多治郎	佐志水	一一八三四
〃	一等兵曹	久保田芳雄	舞水	二二二四五
〃	〃	武内藤三郎	横志水	三五四六八
〃	〃	君塚四郎	横志水	二七八六九
〃	〃	村上博	吳志水	八二三二
〃	一等特貿兵曹	齊藤稔	吳志機	一九五六七
〃	二等兵曹	北山常太郎	吳練	六四五九
〃	〃	岩永留治	佐志水	四五五七
〃	〃	金井顯三	吳練水	三五〇二八

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃	一等水兵	喜田政文	吳志水	四五六五六
〃	〃	橋本靜	佐世保	五七〇九
〃	〃	栗澤繁次	佐鎮水	八〇八
〃	一等機関兵	内田正史	横須機	二八四一六
〃	〃	秋田秀雄	吳鎮機	二八一四一
〃	〃	鈴木弘一	吳國機	七二
〃	〃	山口義秋	吳國機	三七四
第二班應急員	上等兵曹	宮前勇	吳志水	一六八一四
〃	一等兵曹	家永由三郎	吳鎮水	二〇五五二
〃	〃	松井藤一	吳鎮水	一八〇八七
〃	〃	濱田善市	吳鎮水	三〇九九四
〃	〃	赤木松男	吳鎮水	二九二〇七
〃	二等兵曹	廣本由次	吳鎮水	四一六四一
〃	水兵長	小和田喜久藏	吳鎮水	四六三六四
〃	一等兵	原義弘	佐志水	四八九四八
〃	〃	柳原三郎	佐鎮水	五九九〇六
〃	〃	錦田春男	佐神水	二八六八
〃	〃	上地太盛	佐補水	三二一三

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

9/

普通船員（五拾壹名）

職	氏名	乗船年月日
甲板長	藤原正行	昭和一九、三、二五
船匠	鷲尾忠助	一九、三、二五
甲板庫手	久田喜久平	一九、三、二五
操舵手	竹内鶴太郎	一九、三、二五
〃	部谷喜作	一九、三、二五
〃	山野金之助	佐渡丸 三一七五
〃	立畑良市	吳國機 六九八
〃	影山亀雄	吳國機 六八七
〃	藤野信雄	舞鶴機 三二九
〃	芦谷原善吉	佐渡丸 三一〇二
〃	安部勝	佐渡丸 二七九一
信號員	柳田資良	樫崎 三四一二
〃	福田末松	樫崎 二九六一三
〃	尾引市郎	樫崎 四五六一

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃	久廣二	一九、三、二五	
〃	生田幹	一九、三、二五	
甲板員	檜枝新一	一九、三、二五	
〃	西野貿次郎	一九、四、一五	
〃	梅本謙次	一九、三、二五	
〃	岡部外美男	一九、三、二五	
〃	松森久男	一九、三、二五	
甲板員心得	内田政次	一九、三、二五	
甲板員見習	湯澤政雄	一九、三、二五	
〃	鈴木新一	一九、五、一	
操機長	白川常一	一九、三、二五	
機関庫手	土浜重六	一九、三、二五	
操機手	小川幸一	一九、三、二五	
〃	塚田梁太郎	一九、三、二五	
〃	早川宗平	一九、三、二五	
〃	廣野佐市	一九、三、二五	
〃	長谷川周作	一九、三、二五	
主副缶手	島田進	一九、五、二五	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

副缶助手	佐藤三雄	一九、三、二五	
機関員	永本長俊	一九、三、二五	
〃	山崎定幸	一九、五、一	
〃	霍本光雄	一九、三、二五	
〃	山之口茂	一九、三、二五	
機関員心得	渡久地政堅	一九、四、二七	
機関員見習	大石留八	一九、四、二七	
〃	大塚精一郎	一九、四、二七	
〃	佐野敬宏	一九、三、二五	
〃	神田昭三	一九、三、二五	
〃	小西昭	一九、三、二五	
〃	尾形豊	一九、三、二五	
〃	美馬孝	一九、三、二五	
〃	伊藤一朗	一九、三、二五	
〃	川内次夫	一九、四、二七	
司厨長	小林佐平	一九、三、二五	
調理手	上田秀信	一九、三、二五	
〃	木村貫一	一九、五、一	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

調理員	筑紫富造	一九、五、一	
同厨員	須本伊佐雄	一九、四、六	
〃	宇佐美義春	一九、三、二五	
〃	阿部好	一九、三、二五	
調理見習員	本宮三郎	一九、三、二五	
〃	竹田孝夫	一九、四、二七	
調理見習員	茅信嗣	一九、三、二五	
〃	湯金山	一九、五、一	
同厨員見習	根本的	一九、三、二〇	
雇員 副官付	向所一郎	一九、三、二五	

3860

昭和十九年六月二十五日

軍機

玄洋丸戰鬪詳報

昭和十九年六月二十日對空戰鬪

特設運送船玄洋丸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

C8C0

目次

一、形勢
二、計画
三、経過
四、令達
五、戰果及被害等報告
六、我が兵力現状
七、功績
八、戰訓

〔目次終〕

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

95.

一、形勢

敵ハ三月下旬「パラオ」空襲以来反攻ノ氣勢漸次高マリ五月下旬ニハ「ニューギニア」北西「ビアク」島ニ上陸ヲ開始シ此ノ方面ニ敵ノ機動部隊頻繁ニ出現セリ

「メジュロ」ニ在泊中ナリシ敵ノ有力ナル機動部隊ハ六月九日頃出港ソノ後所在不明ナリシ所六月十一日「サイパン」「テニアン」「ロタ」大宮島等廣範圍ニ亘リ同時ニ空襲アリ十四日ニハ敵ハ「サイパン」ニ上陸ヲ開始シ且ツ多數艦船ヲ以テ艦砲射撃ヲ加ヘ此ノ方面ニ敵ノ有力ナル機動部隊四及至五群行動シツツアルコト明トナレリ

味方ハ五月二十日「あ」號作戦部隊ヲ編成セラレソノ基幹タルベキ第一機動艦隊ハ「タウイタウイ」泊地ニ待機シアリタルモ戦機熟スルニ及ビ六月十三日「タウイタウイ」ヨリ「ギマラス」ニ前進六月十五日「ギマラス」ヲ出撃西太平洋ニ進出セリ

1.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二、計画

機密機動部隊命令作第六七號及第六八號所定

三、經過

(イ) 玄洋丸ハ第一機動艦隊附屬シ、あづさ丸、雪風、浦風ト共ニ「あ」號作戰部隊第二補給部隊トシテ命ニ依リ六月十五日〇八三〇ギマラス泊地出撃、十七日一八四〇頃E点(北十二度〇分東一三一度〇分)ニ於テ第一補給部隊ニ合同、翌十八日〇七三〇頃速吸ニ合同F点(北一四度四〇分東一三四度二〇分)ニ於テ待機セリ、同日一五一五頃更ニ名取ト合同シタルモ同艦ハ翌十九日〇五一五頃分離マニラニ向ヘリ、十九日二二〇〇頃ニ至リ補給部隊ハ北一五度二〇分東經一三四度四〇分ニ進出スベキ命ニ接シ、翌二十日〇六〇〇同地点ニ着、燃料補給ノ準備ヲ完成、待機シアリタル所一〇〇〇頃ニ至

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

リ味方本隊ニ合同大和ニ対シ縦曳給油ヲ行フベキ旨ノ命令アリタルヲ以テ同艦ニ近接ヲ試ミタルモ本隊ハ高速力ニテ西航ヲ續ケツヽアルヲ以テ概ネ艦隊航進方向ニ續航セリ

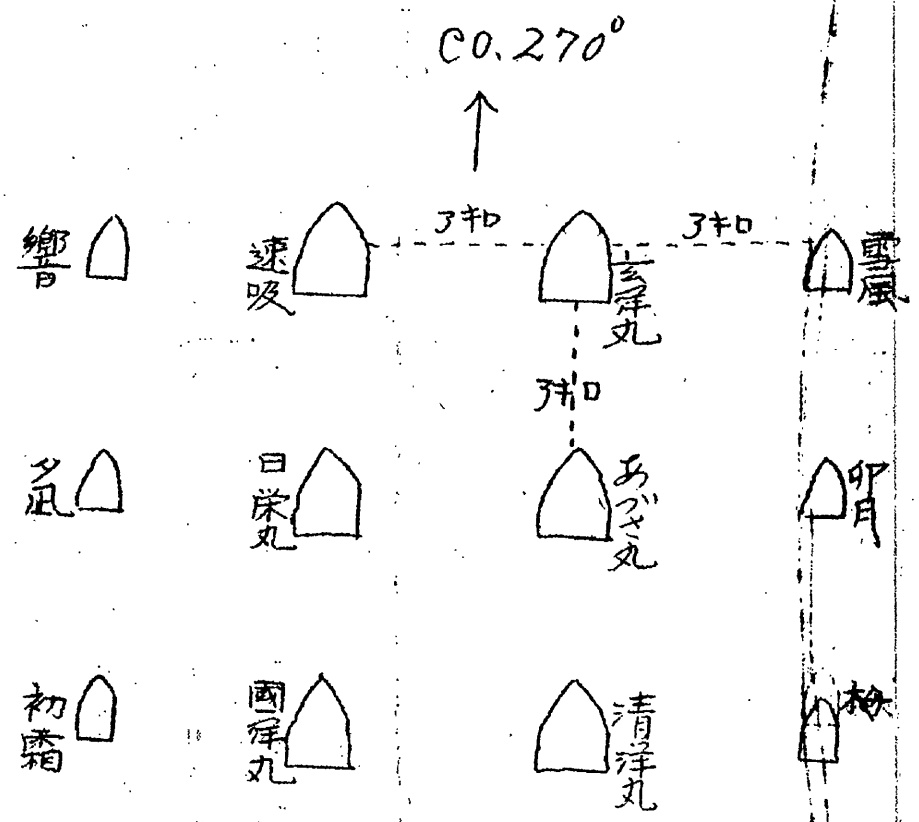
一五四五ニ至リ「急」速西方ニ避退セヨト命ニ接シ概ネ補給部隊ハ合同ノマヽ全力(約十五節)ヲ以テ西方ニ避退セモ一七〇〇頃遂ニ二七〇度方向ニ本隊ヲ見失ヘリ

一七三五頃二七〇度遠距離ニ敵機十六機北上スルヲ認メタルヲ以テ直チニ總員配置ニ就キ対空戦闘用意ヲナス間モナク更ニ四〇度方向ニ十九機西方ニ飛行シツヽアルヲ認メ各艦概ネ三〇〇〇米ニ散開待機セリ　當時ノ陣形左ノ如シ

2

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

CCCO



(註)

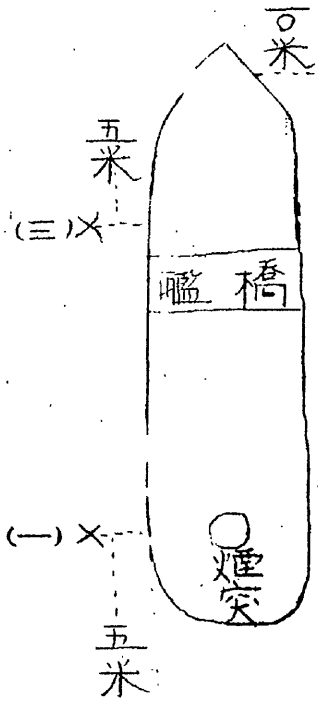
一、第一補給部隊
速吸、日栄丸、國洋丸、清洋丸
響、初霜、夕凪、桜

第二補給部隊
玄洋丸、あづさ丸、雪風、卯月
(浦風ト交代)

二、敵機来襲ノ際ハ各艦
概ネ針路三〇〇度全力
運転ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二七四五ニ至リ〇度方向及三〇〇度方向上空ニ味方部隊ノ射撃セル炸裂弾ノ砲煙ヲ認ム一七五〇頃三〇〇度方向ヨリ補給部隊ニ近接スル敵機十六機ヲ認メタルヲ針路三〇〇度トナシ待機シツヽアリタル所敵機ハ後方ニ廻リ近接シ来ルヲ以テ之ニ対シ射撃ヲ開始セリ敵ハ三機編隊トナリ高度四〇〇〇米附近ヨリ降下角約六十度ニテ急降下ヲ始トシテ給油艦ニ対シ銃撃ヲ行ヒツヽ爆弾ヲ投下北方ニ避退セリ本船ニ来襲ノ三機ハ各機一弾宛投下左図ノ如ク命中セリ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

機械室左舷ノ至近弾（第一弾）ニ依リ機械停止シ機械室ニ浸水
第三弾ハ水煙全ク艦橋ヲ蔽ヘリ其ノ後敵機ハ尚附近ニアリ
タルモ未ダ襲スルモノナク一九〇〇頃上空ニ敵機ヲ認メザルニ至レリ
機械ハ激震ト弾片約四十個命中トニ依リ大破全然復旧
見込ナク直ニ被曳航準備ヲナシあづさ丸ヲシテ曳航セシメ
ント決意シ極力機械室ノ浸水遮防ニ努メタルモ二〇〇〇頃ニ
ハ浸水量約一〇〇〇噸ニ達シ漸次増加シツヽアリタリ 加フルニ敵
艦隊ハ概ネ東方約一五〇浬ニアリ此ノマヽナレバ概ネ二十日
〇〇〇〇頃ニハ敵艦艇ト交戦スルノ止ムナキニ至ルモノト判断シ
累ヲ補給部隊全部ニ及ストヲ虞レ曳航断念シ自沈スル
決意シ二〇二五退船用意ヲ命シ機密書類、兵器ノ處分ニ着
手シ駆逐艦卯月ヲ右舷ニ横付セシメ同艦ニ対シ蒸気アル迄
燃料ヲ補給セリ（約一二〇噸）二二〇〇頃退船準備完了セルヲ以

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

95.

テ總員ヲ上甲板ニ集合ニ一四〇軍艦旗ヲ降下總員ニ対シ訓示ヲ與ヘ卯月ニ移乗ヲ開始シ二二〇五キングストンヲ開キ機械室、重油タンク等ヲ開放ノマヽ之ニ急速注水ヲ開始セリ

三二〇頃移乗完了横付ヲ離ス際ハ既ニ左舷ニ約八度傾斜シ急速浸水シツヽヲ認メタルモ尚卯月ニ対シ玄洋丸ノ處分ヲ命シ約六〇〇米ノ距離ニテ十二糎砲彈ハ發ヲ發射シ一彈ハ艦橋下ニ命中火災ヲ起シ漸次擴大シ沈没確實ト認メタルヲ以テ補給部隊ニ急速合同スル如ク行動セリ

自沈ニ至ル迄ノ經過概要別記ノ通

玄洋丸行動作業經過概要

(ロ)

天候	行動作業概要
月 日 時刻	
半晴 六—五	第二補給部隊(補給隊玄洋丸あづさ丸護衛隊 雪風 浦風)
〃 〃 〇八三〇	ギマニス出港第一警戒航行隊形

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

	六一五	二〇〇〇	サンベルナージノ水道通過第五警戒航行隊形
半晴	六一一七	一三〇〇	巨椰着附近機宜航行
〃	〃	一四四〇	卯月ト會合ス
〃	〃	一五五〇	秋月ト會合ス（機動部隊ヨリ信号傳達ス為）
〃	〃	一八三〇	第一補給部隊（白隊丸、國洋丸、清洋丸、響）ト合同ス
〃	〃	〃	椰ニ向フ
〃	〃	一八四五	秋月、浦風本隊復帰ノ為分離
半晴	六一一八	〇七三〇	速吸、白鷹（速吸初霜、夕凪、白鷹）ト合同ス
〃	〃	一五〇〇	名取ト合同ス　ドバ着
半晴	六一一九	〇五一五	名取　解列　アニラニ回航ス
〃	〃	〇八〇〇	總員集合（決戰開始ニ當リ指揮官訓示）
〃	〃	一七一五	總員集合（御言葉傳達）
〃	〃	二四〇〇	北緯一五度二十分東經三四度四〇分ニ向フ

8660

半晴 六十吉	〇五一〇	洋上補給準備ヲナス	
〃	〇六二〇	艦隊ト合同反転隨伴ス	
〃	一二〇〇	補給ノ爲艦隊ノ後尾ニ續航	
〃	一四一五	艦隊高速ニテ西方ニ避退ス艦内第一配備	
〃	一五三五	艦内第二配備	
〃	一七三五	二七〇度方向ニ敵機十六機及四〇度方向ニ敵機十九	
〃	〃	機味方主力ニ向フヲ認ム	
〃	一七二六	戰斗用意	
〃	一七四六	対空戰斗	
〃	一七五六	戰斗開始	
〃	一八〇六	敵機三機急降下各機一彈宛投彈一彈ハ機	
〃	〃	械室左舷五米ニ彈ハ艏右舷十米ニ彈ハ艦橋	
〃	〃	左舷五米ニ落下炸裂	

5

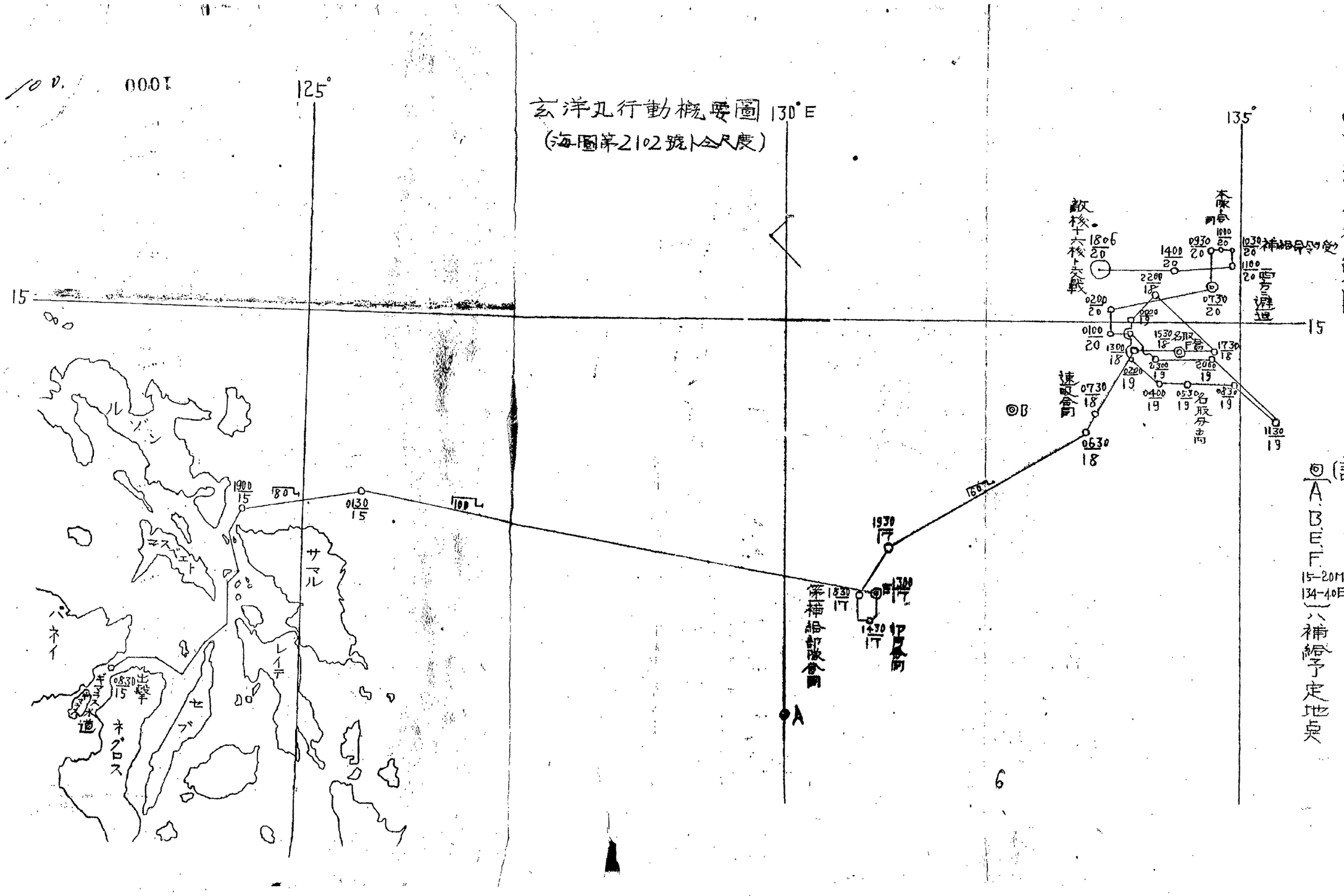
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

半晴

六一二〇	一八一〇	敵機ノ至近彈ニ依リ機械故障航行不能トナル
〃	一八一二	打方待テ
〃	一八三〇	被曳航準備ヲナス
〃	一八五五	被曳航準備完成
〃	二〇二五	總員退船用意
〃	二〇三〇	秘密圖書秘密関係書類ノ處分始ム
〃	二一〇〇	卯月右舷ニ横付ス
〃	二一二五	秘密圖書秘密関係書類處分終了
〃	二一三〇	總員集合指揮官退船ニ際シ訓示
〃	二一五〇	軍艦旗ヲ降下
〃	二二〇〇	機械室内金子弁ヲ開キ船内注水ヲ始ム
〃	二二〇五	總員移乗終了
〃	二二一〇	卯月横付ヲ離ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

玄洋丸行動概要圖
（海圖第2102號ノ全尺度）



(ハ) 玄洋丸行動圖

(註)
Ⓐ A. B. E. F.
15-20M
134-40E
八補給予定地点

半晴
六一〇
三三〇
卯月ノ砲撃ニ依リ玄洋丸火災時爆発スル
記ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(イ)電信

月日	時刻	発信者	着信者	信文
六一三	一八三〇	KdB P	1TB 2TB 各PA KdB	KdB 機密第一三一六一四番電
				機動部隊電令作第一六號 第一補給部隊第二補給部隊三〇分間待機ト十七
六一三	一八四〇	P GF	あ號作戰部隊	GF 機密第一三一七二七番電
				GF電令作第一四六號
				あ號作戰決戰用意
六一九	二一三一	P KdB	1TB 2TB 各PA KdB	KdB 機密第一九二〇一〇番電
				第一、第二、補給部隊八地点ヘチ十八〇二進
				出待機セヨ
六一二〇	二五四五	P KdB	1TB 2TB	KdB 機密第二〇一五三〇番電

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(四)

信號	月日	時刻	発信者	着信者	信文
	六一二〇	一七五八	不明	hdb	速ニ西方ニ避退セヨ
	六一二〇	一八四〇	指揮官	P hdb	一二〇度方向ニ敵ノ大編隊見ユ電話
					玄洋丸機密第二〇一八三〇番電
					速吸清洋丸炎上、玄洋丸航行不能
〃	六一二〇	〇五一五	速吸	各艦	〇六〇〇補給開始ノ予定
〃	〃	〇六四〇	本艦	卯雪	卯月補給中ニ敵ハ洋丸卯月ハあづさ丸ノ護衛ニ當シ
〃	〃	〇七三五	黒隊	通報艦P	〇七〇〇方二〇、〇七一〇方
					九〇 計一六K
〃		〇八二〇	速吸	各艦	右ニ反転針路二七〇度トナニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六一二〇	六一二〇		通報
二〇〇	不明		明黒
愛宕	本艦		補給要領
D隊	速吸	玄洋丸 清洋丸 速吸 あづさ丸	二区分
通報明黒補給要領 一供給艦ノ占位々置後令 二区分大和能代及駆逐艦三八玄洋丸武蔵及駆逐艦四八速吸 48あづさ丸79八清洋丸駆逐艦ノ区分八28α司令官所定 三要領戦艦横縦曳巡洋艦以下 兩舷横曳 四搭載量 満載	主隊ニ合同スル如ク行動サシテハ如何		狀況知ラサレ度シ
六一二〇	不明	本艦	速吸

8.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六一二〇	四三五	速吸	各艦
			艦隊ハ二六節ニテ西航セリ 敵ニ襲ノ虞アルモノヽ如シ
六一二〇	一六四〇	速吸	各艦
			速吸ヲ基準トシテ距離間隔五粁 開ケ針路二七〇度 速力一四節
六一二〇	一六五〇	速吸	各艦
			七一五ヨリ左ニヨリ補給ヲ行フ 雪風速吸ノ左舷ニ初霜ハ玄洋丸ノ左右補給 量満載 補給針路九〇度
六一二〇	一七〇三	速吸	各艦
			補給ヲ止メ西方ニ避退ス
六一二〇	一七三五	初霜	各艦
			二七〇度方向敵飛行機発見（真珠）
六一二〇	八二七	本船	速吸 雪風
		〃	我航行不能
		〃	あづさ丸 曳航準備ヲナシ置ケ
六一二〇	八三五	本船	速吸
			我航行不能あづさ丸ヲシテ曳航セシメラレ度シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六一二〇	不明	本艦	日栄丸	戦斗状況ヲ艦隊長官ニ報告セヨ
六一二〇	八四五	〃	あづさ丸	曳航要領ハ此ノ前ノ通
六一二〇	八四八	日栄丸	本船	曳航準備ヲナセ
六一二〇	八五〇	本船	雪風	後暫クデあづさ丸ニ曳航セシム 本船周囲ヲ警戒セヨ
六一二〇	不明	本船	雪風	あづさ丸ヲ呼ビ来ラレ度シ
六一二〇	八五五	日栄丸	各艦	異状ノ有無知ラサレ度シ
六一二〇	九〇五	本船	あづさ丸	我整備近寄ル
六一二〇	二〇一〇	卯月	本船	我ネザー。噴曳航補給御願ス 敵艦隊追撃スルモノト認ム避退サレテハ如何 清祥丸生存者全部收容セリ
六一二〇	二〇二〇	本船	卯月	速ニ右舷ニ横付セヨ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五、戰果及被害

(イ) 戰果

(ロ) 被害

補給部隊ニテ三機撃墜

六一二〇 二〇三〇	〃	速吸	本船船体被棄セルヤ曳航セシメラルヤ
六一二〇 二〇三五	〃	本船	速吸自沈處分ヲナス
六一二〇 二〇三八	〃	〃	〃 貨艦航行可能ナリヤ
六一二〇 二〇四三	〃	速吸	本船可能ナリ
六一二〇 二〇四五	〃	雪風	右艦我今ヨリ清洋丸ヲ處分ス
六一二〇 二一五	〃	本船	雪風我退船ス本船左舷ニ横付サレ度シ
六一二〇 二一三〇	〃	〃	あづさ丸 速ニ西方ニ避退セヨ
六一二〇 二一四五	〃	〃	雪風 横付スルニ及ズ雪風ハあづさ丸ヲ護衛西方ニ避退セヨ 我退船ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

至近弾三発ニヨリ激震ト約四〇個ノ炸裂弾片トニヨリ機械大破
機械室浸水ニ依リ航行全然不能ニ陥リ「あづま丸」ヲシテ曳航ヲ試ミタルモ敵艦隊トノ距離近ク累ヲ補給部隊全部ニ及スヲ恐レ自沈セリ
自沈ニ至ル迄ノ被害、状況左ノ如シ

(一)船体

1、弾片ニ依ル舷側外鈑ノ破孔

イ 右舷前部、左舷中部水線上ニ若干アリタルモ同所ハ重油タンクニシテ数量不明

ロ 左舷後部水線上無数ニシテ機械室ノミニテモ約四〇個ノ破孔ヲ生ジ大ナルモノハ径二〇糎位ナリ

2、弾片ニ依ル上部構造物

艦橋下左舷諸室ニ経五〇粍ノ破孔三

10.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

3. 銃撃ニ依リ上甲板ニ経二十五粍位ノ破孔五

(二) 兵器

無線 空中線ヲ折断セラレタル以外ナシ

(三) 機関

1. 主 潤滑油冷却器

激震ニ依リ冷却器ハ三個ニ分裂飛散

2. ビルジ喞筒 清水喞筒

主機カム軸主歯車落下ニ依リ大破起動器ハ約十米ノ位置ニ飛散

3. 汽動用ビルジバラスト喞筒

ビルジ管折損 取付部離脱

4. 消火喞筒

破損約一米移動

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

105

5. 金子弁嚙子取付部ヨリ切損 海水噴出

6. 潤滑油喞筒 喞筒取付部離脱

7. 下部金子弁嚙子接合部切損、海水猛烈ニ噴出

8. 其ノ他 各部激震弾片ニ依リ移動又ハ無數ノ小破孔ヲ生ゼリ 又機械室左舷外鈑ハ約四〇個ノ弾片破孔ヲ生ズ

9. 機械室ノ浸水量約一〇〇〇噸ニシテ尚漸次増加シツヽアリ

三人員

戰死者 ナシ

軽傷者 二

11.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

我が兵力ノ現状

略

七 功績

乗員滅私奉公ノ念ニ燃エ特設艦船ニ類例ナキ日夕ノ猛訓練ニ依リ戦斗ニ當リテハ泰然自若トシテ敵機ヲ邀撃シ其ノ心膽ヲ寒カラシメタル功績大ナレドモ機械ノ大破ニ依リ自沈ノ止ムナキニ至レルハ眞ニ申譯ナキヲ痛感シツヽアリ

八 戦訓

(イ) 敵艦爆ハ三機編隊ニテ後方ヨリ追躡シ高度四〇〇〇米附近降下角六〇度附近ニテ急降下シ約一五〇〇米附近ニテ各機一個宛投下セリ且ツ投下前後ニハ銃撃ヲ行ヒ緩漫ニ上昇シツヽ直角ニ避退セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(四)敵爆弾ハソノ炸裂状況ヨリ見ルニ遅動信管ヲ使用シアリシ如シ

(ハ)敵機ハ急降下中本船機銃弾ヲ回避スルガ如キ飛行ヲナシタリ射撃猛烈ナレバ敵機ハ近迫ヲ遂ジ巡スルモノト認メラル

(ニ)敵機投下セル爆弾ハ爆発ノ状況及各艦ノ目撃ヲ綜合推察スルニ二三〇キロ爆弾ト推定ス又機銃弾ハ十三粍ト推定ス

(ホ)我二十五粍機銃ハ対空射撃用トシテ極メテ有効ナリト認ム弾道明瞭ニシテ故障ナシ(発射弾数五六〇発)但シ射撃中射撃点修正ハ射撃指揮官ヨリノ號令ニ依ル修正及射手旋回手自身ニ依ル修正ハ共ニ極メテ困難ナルヲ以テ次ノ如ク改造スルノ要アリト認ム

改造要領

現機銃ノ側方又ハ後方ニ射撃点修正装置ヲ設ケ之ヲ

12

優秀ナル觀測員ヲ配シ射撃中隨時任意ニ射撃点ヲ変更シ得ル如キ装置ヲ附加セシム

(ヘ) 曳航給油ヲ行フ特設運送船ハ作戦部隊ト行動ヲ共ニスルヲ以テ兵装ヲ強化スルヲ要ス

本船ハ短八糎砲前後ニ各一門及船橋屋上左舷ニ二十五粍機銃二聯装一基ノミニシテ作戦開始直前大鳳ヨリ二十五粍機銃單装一基ヲ借用船橋屋上右舷ニ装備セリ

彈道ノ状況ヨリ見テ二十五粍機銃三聯装又ハ二聯装ヲ片舷ニ基有シタリセバ全機撃隊ニ確實ナリト思考セラル

又短八糎砲ハ敵機ニ対シテハ全然射撃不能ナリシヨリ以テ高角式十糎砲ニ改造艦首尾各一門艦橋両舷ニ各一門装備スルヲ要ス

(ト) 本船ノ無線兵器ハ短波送信機(商船固有)一長中波送信機

一〇一

商船固有二、九二式特改四受信機二、九〇式電話一、二號電話一、ニシテ作戰部隊ノ通信裝置トシテハ極メテ貧弱ナリ重要通信ハ全部護衛駆逐艦ニテ受信シ信號ヲ以テ通報セラレツヽアルモ時機ヲ失スルコト多シ

受信機ハ少ク共三乃至四台裝備スルヲ要ス

(イ) 暗號書ヲ少ク共駆逐艦程度ニ配給スルヲ要ス重要通信ニシテ暗號書ナキ為毎度護衛艦ニ訳文ヲ依頼シ漸ク目的ヲ達シツヽアルモ夜間及單獨行動場合ハ如何トモ致シ難キ狀況ナリ

(リ) 見張兵器ヲ増備スルノ要アリ

本船ノ見張用眼鏡ハ十二糎、八糎各一、七倍稜鏡四ナルモ十二糎ハ主トシテ信号用ニ使用シ七倍稜鏡ハ指揮用、喇叭戒長用、信号兵用トシテ各一ヲ使用シツヽアルヲ以テ貧

17

際見張用トシテ使用シ得ルモノハ僅ニ一個ナリ見張ハ特設艦船ノ生命ナルヲ以テ少ク共十二糎三八糎三十倍後鏡八個ヲ装備スルノ要アリ

(又)舶用機関ハ全部「タービン」式トナスヲ可ト認ム

「デーゼル」機関ハ燃料ノ消費少ク且ツ発停簡単ニシテ極メテ便利ナレドモ手入不充分ナル時ハ故障續出シ且ツ震動ニ対シ脆弱性アリ

今次被害ニ於テ船体兵器人員等戦斗航海ニ差支ヘナカリシモ至近弾ノ激震ニ依リ機械大破シ遂ニ自沈ノ止ムナキニ至レルハ眞ニ遺憾トスル所ナリ

(ル)曳航給油ヲ目的トスル給油艦ハ臨時編制部隊トスルコトナク補給戦隊ヲ編制シ置クヲ要ス

今次作戦ニ於テ曳航給油船ハ二個部隊ニ編制セラレ合同ノ

際ハ先任指揮官之ヲ指揮統制スルコトニ定メラレタリ
從テ十七日巳刻ニ於テ合同ノ際ハ玄洋丸指揮官之ヲ指揮
シ翌朝速吸合同スルヤ速吸特務艦長之ヲ指揮シ今日夕
刻名取合同スルヤ名取艦長之ヲ指揮シ翌十九日名取
マニラニ回航スルヤ再ビ速吸特務艦長指揮ヲ執レリ
ソ間事前何等ノ打合モナク又何等ノ命令モナク合同ノ部
度信号ニテ命令スル状況ニテ艦船番号ニ於テスラ実ニ面
変更セラレタリ
又護衛艦ノ如キハ命令ニ定メラレタルモノニシテ実際行動ヲ共
ニシタルモノハ六隻中僅ニ二隻ニシテ命令等モ交付スル機會
ナク行動中錯誤ヲ来タシタルコト多シ特ニ白露、清洋丸衝突
白露沈没セルハ誠ニ遺憾ナル事件ナリ　燃料補給就中
曳航給油ガ作戦上如何ニ重要ナルカハ一般ニ来タ認識

14

不足ナリ

(オ)特設運送船ノ配員ヲ強化スルノ要アリ

玄洋丸ニ於テハ

指揮官　大佐（現）一

主計長　主計大尉（現）一

掌内務長　少尉（召）一

掌機長　機関兵曹長（召）一

ニシテ哨戒長タルベキ士官ノ配員ナキヲ以テ指揮官ハ航海中文字通一睡モ出来ズ航海長期ニ亘ル場合ハ疲労極度ニ達シツツアリ

又射撃指揮官ハ掌内務長（應召）ヲ以テ當リ應召セラレテ始メテ射撃指揮官トナリタル状況ナリ

軍醫科士官ノ配員ナク患者発生ノ場合或ハ防疫上遺憾

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ点タキノミナラズ士氣ニ影響スルコト大ナリ

左記ノ如ク増員スルノ要アリ

分隊長　二

軍醫長　一

分隊士　二

又下士官兵ハ大部分應召員ニシテ指導者少キ特設艦船乘員ハ現役兵タルヲ要ス

(ワ)特設運送船ノ應急用器材裝備標準ヲ定メ應急用器材ヲ配給スルノ要アリ

本船ハ昭和十六年十一月海軍ニ徵傭「ミッドウェー」作戰以来全作戰ニ參加シアリ

然ルニ應急器材ハ何等裝備シタルモノナク防毒面分隊消火器スラ無キ狀況ニシテ昭和十九年二月佐世保ニ於テ

15.

ソノ一部ヲ搭載シソノ足ラザルハ乗員ノ工夫ト訓練ニ依リテ補ヘリ

昭和十九年五月七日「バリグパパン」港口ニテ觸雷機械室ニ浸水アリタル際本船ノ沈没ヲ防止シ得タルハ器材ノ備アリタルト日頃ノ猛訓練ノ結果ナリ又今次作戦中清洋丸及速吸ニ爆弾命中シ共ニ火災ヲ起シタルニ速吸ハ良ク之ヲ消火シ清洋丸ハ大火災トナリ沈没スルニ至リタルハ全ク器材ト訓練ノ差ナリト認メラル

現特設艦船ノ多クハ被害アリタル場合之ガ應急處置極メテ拙劣ニシテ器材ト訓練アリタリトセバ船ノ運命ヲ保全シ得タルナラント認メラルヘモノ極メテ多キハ注意ヲ要スベキ事項ト認ム

（終）